

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾

専門学校 麻生リハビリテーション大学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 3 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生リハビリテーション大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

委員名簿

名 前	所 属	区 分
杉野 晴一	福岡県立稲築志耕館高校 校長	高等学校
小波 昌之	地域住民	地域住民
久保田 勝徳	福岡県理学療法士会 理事(桜十字福岡病院)	有識者
黒木 勝仁	福岡県作業療法協会 理事(原三信病院)	有識者
椛 史人	福岡県言語聴覚士会 理事(生活介護 風の丘)	有識者
中村 太	作業療法学科保護者	PTA
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	企業
西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生 (株式会社麻生 飯塚病院)	卒業生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年7月21日（水）16：00 ～ 17：30

場 所：麻生リハビリテーション大学校 会議室（Zoom）

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

- (1) 教育目標、育成人材像、行動指針および3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）を周知徹底する。
- (2) 育成人材像、行動指針を実現するために、2020年度のカリキュラム改訂に対応し、かつ各学科の特色を生かしたカリキュラムの提供を行う。
- (3) 基礎科目から応用科目へ発展するように診療参加型実習に対応した講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。
- (4) リメディアル教育の充実を図る。

以上の重点項目に対し、以下の通り取り組んだ。

- (1) 教育目標、育成人材像および3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）をカリキュラム委員会において策定し、HP上で公開した。
- (2) 作業療法及び言語聴覚の両学科では診療参加型実習への変更を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け十分に実施できなかった。
- (3) ベネッセグループの入学前教育プログラムを導入し、リメディアル教育の充実を図っている。

今後の取り組みとしては、

- (1) 公開している教育目標、育成人材像および3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）を今後も教職員、講師会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等で周知徹底する。
- (2) 今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できなかった臨床実習の一部ならびに実習指導者会議を徹底した感染対策のうえで実施する。昨年に引き続き、臨床教育施設および臨床実習指導者への診療参加型実習運用への理解と協力を推進する。
- (3) リメディアル教育の効果検証を引き続き実施していく。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

教育理念、目的、人材育成像、ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）及びアドミッション・ポリシー（AP）を定め、学生便覧に掲載するとともに、学生・教職員へ周知している。またホームページで情報公開を行っている。

課題として、各学科が定めている3つのポリシーに基づき実施されている、入学者選抜及び体系的で組織的な教育を見直すこと、学校として明文化されている教育目的・育成人材像が、学科単位では明文化されていないことが挙げられる。

今後は、各学科の教育目標や育成人材像を明文化し、周知を図っていくとともに、コマシラバスの策定を行い、教育の実質化を図る。

【評価委員からの意見】

安藤：3つのポリシーに則って運営しているのであれば、資料にも記載して委員の皆様からもそのポリシーに則ったものであるかどうかを判断できるようにして欲しい。

田中：（3つのポリシーを説明）学生にも入学時にこのポリシーは共有している。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

キックオフ会議を通じ、今年度策定した事業計画を各職員へ周知している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために全体会議を自粛し、責任者会議（Web）で問題事項などを審議決定し、その後各学科会議（Web）で決定事項および情報の共有を行った。特に、コロナ感染対策等については、適時緊急の責任者会議を招集し、各部署へ指示を行う等決定事項を速やかに伝え適切な対応が出来た。また、在宅勤務時においても全教職員が学内サーバーにアクセスできる環境を整備し、学内システムや文書の閲覧、更新を可能とし、業務や情報について円滑な運用がなされるようにした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で期初の事業計画からの大幅な変更を余儀なくされ、今年度は、感染対策が最優先事項となり、適時学校法人の感染予防対策委員会からの決定事項をオンラインで周知し履行することに専念せざるを得なかった。そのため、新入社員への教育および全体会議をはじめ学校運営にかかる各種会議が停滞した。また、情報のシステム化への対応が遅れているため、ファイル整理が不十分で、共有すべきファイルの検索に時間がかかっている。

今後は、新型コロナウイルス感染拡大等の非常時の学校運営を想定した事業計画を策定し、オンラインによる定期的な会議の場を設け周知する体制を再構築していくこととする。また、共有すべき情報について教職員への周知ならびに活用しやすいようにデータファイルの整理を行う。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

・各学科における教育目的、育人人材像に向けたカリキュラムの作成等は、学校の教育方針に従って、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び言語聴覚士学校養成所指定規則（以下、指定規則という）を遵守し作成している。カリキュラムの策定は各学科で行い、責任者会議で採択される。定められた教育目的、育人人材像は、「学生便覧」に記載し、新入生オリエンテーション時に説明し周知を図っている。教科毎作成しているシラバスも学科毎に前期・後期それぞれ学生および教員と共有し、Web サイトでの公表も行っている。また、時代の変化に対応した内容となるように見直しも行なっている。

・教育目標の達成や人材育成がスムーズ行われるように、関係法令に基づいた資格要件を満たす教員の組織体制を整備し、定められた教育課程に基づいた授業を行っている。

・授業アンケートによる学生からのフィードバック、教育課程編成委員会との連携、教員間の授業見学などにより授業評価を行い、その結果を基にした授業改善の取り組みがなされている。

・また、全教員が企業と連携した「医療機関研修」を定期的実施し、専門領域分野での研鑽を図るとともに、全国リハビリテーション学校協会主催研修をはじめとして教育関連研修や専門分野や担当分野に関する学会、研修会へ参加し、教育力の向上を図っている。ただし、今年度はコロナ禍の影響で厚生労働省が主催する教員講習が実施されず、対象となる教員が受講できていない。

・一方学科において検討されたカリキュラムについての議事録が残されていない、新しいカリキュラムについてコマシラバスの策定がなされていない、カリキュラムマップ（ツリー）が一部の学科の作成に留まっているなど課題がある。さらに、全ての学科において各教員への授業評価のフィードバックは行われているが、一部の学科においてその記録が取られていない、進級判定、卒業判定会議の議事録が残されていないなどの課題もある。学会や研修への参加はあるものの、人材育成像に沿った研修計画も不十分である。

・今後は、課題として挙げたカリキュラム策定、進級判定及び卒業判定会議に関する議事録の作成、全学科でディプロマ・ポリシーと相関するカリキュラムマップ（ツリー）の策定・公表、新しいカリキュラムに基づいたコマシラバスの策定を行う。また、授業評価アンケート結果のフィードバックについては、改善方法の確認やその記録の残し方など効果的に行えるような仕組みを作る。教員の資質向上のため、担当業務に応じたより高度な知識、技術を身につけられるよう教員の育成計画に則った研修計画を作成し計画的に実施する。なお、実務研修として実施されている臨床研修についても報告書に記載する。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

1年次は、ベネッセグループの教育システムを導入し入学前教育を徹底し、授業スタート前に学力確認テストを実施するとともに、学習へのモチベーションを測った。そのデータをもとにそれぞれの学生の学力を把握し、個別指導を徹底した。また、下半期に同様のテストを実施し、入学時との比較検討を行い、個別指導を徹底し学習支援を行った。学習状況の記録シートの導入や、すべての学年を通して学習習慣の徹底を定着する取り組みを行った。

課題とはしていないが、今後も各学年において、自主学習を確実にさせるために、e-ラーニングの本格的な導入をおよび実践を行っていくこと、また、最終学年の国家試験対策については、個別的、能動的、効率的な学習環境の提供を目的に、オンラインを併用したグループ学習およびチューター制度等を行い効果的な学習方法を構築していくこととしている。また、卒業後のキャリア形成や社会的適応を把握するため、卒業生アンケートを継続して実施する。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い経済的困難に直面している学生および保護者の皆さまへ学校法人として校納金の納入期限延長など種々の生活支援制度を整備した。また、休校及び遠隔授業時においても、学生から日々の体調に関しインターネットを通じ報告を受け健康管理を行った。

上半期は緊急事態宣言の影響で入学者に対する各支援が滞るなど、支援体制構築に時間がかかり、前期の授業開始が大幅に遅れるなどの支障が出た。就職活動においては、事前の病院見学等の機会が減少し且つオンラインのみの就職活動も増えたため、十分な企業研究も無く内定したケースもあり、入社後のミスマッチが懸念される。

今後は、非常時においても、入学時の基礎学力、学習習慣と方策、モチベーション（進学意欲、学習・職業意識）について情報収集および分析を継続して行う。さらに、学生の状況を把握するために、担任との面談状況、講義の中での確認テストなどの結果や学校生活の様子を総合した情報を共有する体制作りをする。

学生への進路支援として、就職活動への動機付けおよび入社後の離職防止を目的に、臨床実習前・後に各領域の現職者による特別講義を実施する。講師には臨床のエピソードを交えて、「自身のキャリア形成」、「やりがい」「醍醐味」「苦勞」などを語っていただく内容を検討する。

【評価委員からの意見】

椛さま：コロナの影響でライブ配信などに切り替わったが、コンテンツ配信の利点である繰り返し見ることが出来る機能は非常に良い取り組みだと思う。

黒木さま：遠隔での試験についてカンニング対策などはどのように講じたのか？

松岡：顔出しの状態での試験を受けさせたほか、教材持ち込み形式にして考えさせる試験にしている。現在も検討を続けており、国家試験同様5択問題を導入するなど工夫をしている。

杉野さま：コロナ対策についての取り組みは素晴らしいと感じた。また遠隔授業についての報告では教材のデジタル化などポストコロナに向けた準備ができていて学校であるという印象を受けた。ちなみに国家試験ではコロナの影響を受けたのか知りたい。

原嶋：全国的にも多少の影響は受けたと考えている。ただし当校においては作業療法学科・言語聴覚学科で全員合格という好成績を治めることができた。理学療法学科については全国平均並と振るわなかったが、次回国家試験に向けて徹底した対策を取っているところである。

小波さま：このコロナの状況において教員の皆さまのご苦勞が伺えた。今後も大変な状況が続くと思われるが、学生のために頑張ってください。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

施設・設備については、指定規則において定められた必要な施設基準、備品を整備しており、当校は監査においても満たされていると評価されている。教職員による機材・備品の棚卸しを年1回実施し、適宜修理補充を実施している。図書についても同様に指定規則に基づき冊数、分野ごとの整備を行っており、学生が利用できる環境を整えている。また、図書に関しては蔵書のみではなく、医学文献閲覧サイト「メディカルオンライン」との契約により、在校生及び教職員が医学文献の検索、全文閲覧、ダウンロードをできる環境を整えている。

実習に関しては、指定規則に基づき、病院、福祉施設および学内で1000時間を超える実習を行なっている。実習開始前に行う実習指導者会議は新型コロナウイルス感染症拡大により対面で実施できなかったが、電話等で教育目標、方法論の共有を図り、指導方法の統一化を図った。学内外の安全対策に関しては、管轄官庁の指導に沿って防災・防犯設備の点検や避難経路の掲示等を実施している。また、万一の事故に備えて、学生災害傷害保険に加入している。

今後の取り組みとしては、リスク管理の面から設備、機材・備品のメンテナンスについて必要な対応を実施すること、有事の際にすぐに取り出せるようマニュアルを出力、ファイリングし、職員に周知すること、指定規則改正に伴う実習施設および臨床実習指導者の要件へ対応することとしている。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

新型コロナウイルスの感染予防の為緊急措置として選考方法を「来校受験型」から「自宅でのオンライン受験型・課題提出型」に一部変更し、告知は、HP、Web 及び文書にて行った。ネットによる筆記試験は、法人 ICT 担当部署と連携し実施し、Web 面接共に支障なく実施できた。インターネット環境等無い一部の受験者は、在籍する高校においてPC室の貸し出し等ご協力を頂いて受験することができた。また、学生納付金等については、法人の財務状況などを考慮しながら適切な校納金や入学金の設定を行った。

今年度は安全を優先した緊急措置としてネットによる筆記試験を実施したが、受験生を不安にさせたこともあり、次年度の募集要項には「オンライン型入試」を実施することを記載し、今年度の事例等説明を行うこととする。オンライン型入試の運用については、法人 ICT 担当部署等と連携しながら更に円滑な運用体制を構築する。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。監査は、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。財務情報は、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

関係法令、専修学校設置基準、指定規則等を遵守し、適正に学校運営を行っている。今年度は指定規則改正に伴い、改正個所に照らし合わせたカリキュラムおよび教室及び実習室、実習施設等に関する変更を実施した。

学内諸規程に関する教職員への周知が徹底出来ていないため、実習施設および臨床実習指導者の要件について情報共有と対応が十分でない施設が散見された。今後は、指定規則及び学内諸規程の周知徹底と指導者要件となる厚生労働省指定の臨床指導者講習会の受講を促していく。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

学校教育、学校運営について、自己点検・評価の必要性を全教職員に伝え、評価結果を全教職員で共有する機会を設けている。毎年定期的に自己点検・評価を行ない、改善計画を作成し、課題解決に取り組んでいる。さらに外部有識者を交えた学校関係者評価委員会において学校関係者評価を実施し、学校運営の改善を図っている。自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はHP上で公表し社会に対する説明責任を果たしている。改善状況については、内部監査にて検証している。

加えて、5年毎にリハビリテーション学校評価機構より教育課程および教育研究活動などの状況に特化した評価を受け、その結果は同機構のHP上に公表されている。今年度実施予定であったリハビリテーション学校評価機構による第三者評価は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施されていない。

自己点検・評価は実施され、学内において評価の共有は出来ているものの、具体的な課題解決活動にまで至っていないのが課題である。

2020年4月の入学生より指定規則が改正されたため、それに準じてカリキュラムを改訂した。今後、改訂した教育内容の効果検証のため、自己点検項目の見直しと評価項目の見直しを行いPDCAサイクルを意識した取り組みを行う。

また、臨床実習に際しては診療参加型臨床実習の漸次導入に向けて臨床実習施設と指導者への周知及び評価基準を検討することで新たな臨床実習の方法を早期に確立する。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

本校の教育ノウハウを活用した職業訓練や緊急雇用対策事業、NPO法人・ボランティア団体等への支援や教職員の参加奨励、国内外からの教育施設見学受け入れなど、学校全体で積極的に社会貢献を進めている。また、教職員は企業・地域・行政等の依頼を受け、出張講義・指導を行なっている。

学生のボランティア活動は、法人内に推進委員会を設け、学校毎あるいは各校の教育内容の特徴を活かした連携を図りながら推進している。

学生、教員ともに多くのボランティア活動への参加実績はあるものの、計画的ではなく受身的な対応が多く、今後は、自主的・自己研鑽的な活動にできるような方策や、ボランティアを行った場合に単位認定を行うことが可能かどうかについて、引き続き学内にて検討する。

併せて、ボランティア活動における感染対策や行動基準を策定することも課題である。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

2020年度はコロナ禍の影響で、海外留学プログラムを実施することができなかったが、個人面談等を頻繁に実施し、学生・保護者の要望（復学・留学待機）をしっかりと把握した。心配や不安を抱かせないよう、担当者と学生・保護者とがしっかりとコミュニケーションを取れるよう努めた。

また、各国の留学生受入れ状況を常に把握し、将来の留学の可能性に向けて常に最新情報を「留学通信」という紙媒体を通じて学生・保護者と共有するよう努めた。

今後は、(株)麻生キャリアサポートや語学学校とのアグリーメントに関して、内容の見直しや業務分担の明確化を行う。

【評価委員からの意見】

特記事項なし

以上